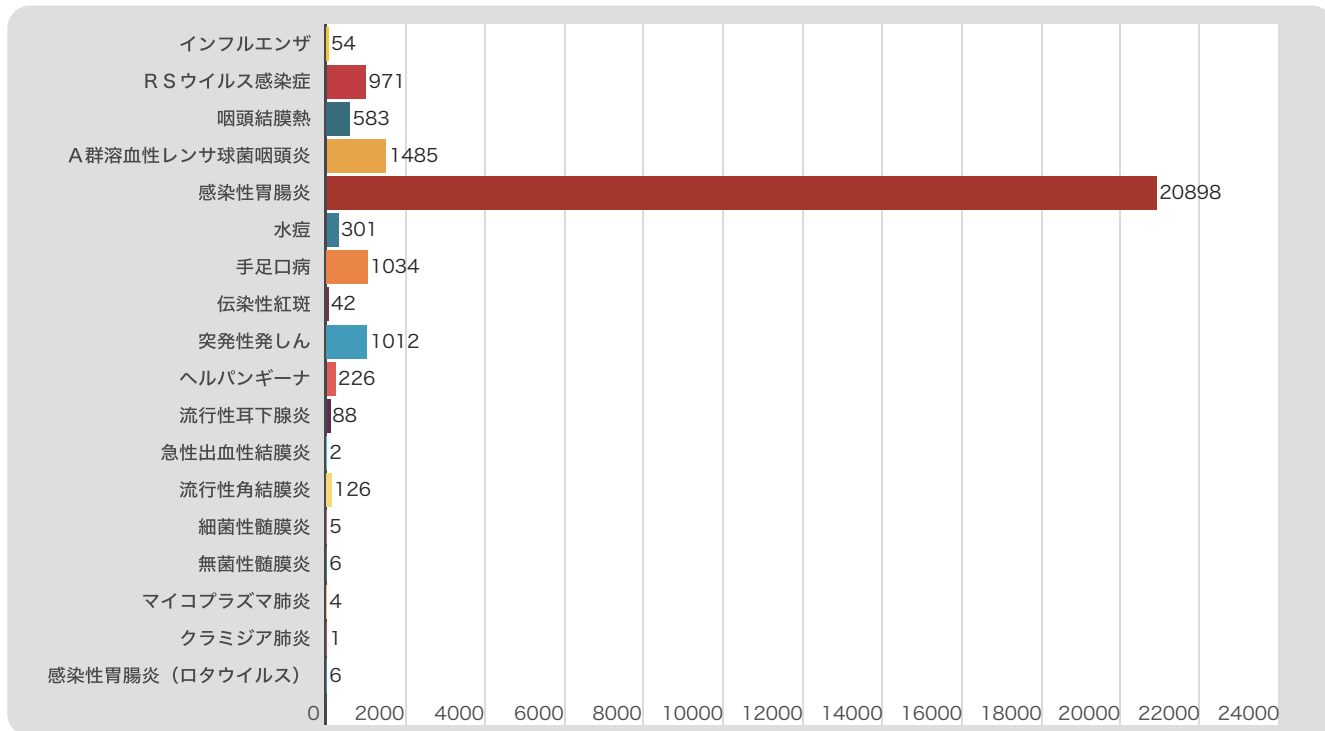


国立感染症研究所が発表する感染症発生動向調査 週報「定点把握疾患(週報告)、累積報告数、定点当たり累積報告数、都道府県別」に基づいて、毎週の感染症報告動向をお届けする。

## 感染性胃腸炎、3週ぶりに2万超



(国立感染症研究所のデータを基に編集部作成)

1月10～16日は定点把握疾患のうち、感染性胃腸炎の報告数が最も多く、2万898例であった。昨年(2021年)第51週(2万4,558例)以降、年末年始を挟み1万例台で推移していたが、3週ぶりに2万例を突破した。続いてA群溶連球菌咽頭炎が1,485例、手足口病が1,034例の順であった。RSウイルス感染症は昨年同週(257例)に比べ3.7倍の971例となっており、今後の動向が注目される。

※2021年同週の上位3位は、感染性胃腸炎7,904例、A群溶連球菌咽頭炎1,772例、突発性発疹1,159例

●**感染性胃腸炎**：前週(1万4,564例)から6,334例増加した。報告数が多かったのは、2週連続で東京都1,916例、大阪府1,447例、埼玉県1,334例の順であった。定点当たりの報告数(6.65)は、山形県が16.10と突出しており、熊本県が12.49、宮崎県が12.31、佐賀県が11.17、大分県が11.08、石川県が10.07と2桁台が6県に上った。以降は、兵庫県が9.75、福岡県が9.68、宮城県が9.12、福井県が8.96、鹿児島県が8.74と続いた。

●**A群溶連球菌咽頭炎**：前週(1,222例)から263例増加した。報告数が多かったのは、福岡県168例、千葉県117例、長崎県84例の順であった。定点当たりの報告数(0.47)は長崎県が1.91、宮崎県が1.83、鳥取県が1.79と続いた。

●**手足口病**：前週(1,168例)から134例減少した。報告数が多かったのは、鹿児島県135例、島根県62例、広島県61例の順であった。定点当たりの報告数(0.33)は、島根県が2.70、鹿児島県が2.55、鳥取県が2.21、沖縄県が1.18と続いた。

### 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)情報

厚生労働省が公表している「国内発生状況」によると、2022年1月24日の新規陽性者数は4万4,692例であった。